

---

# 金色の液体

日向葵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

金色の液体

### 【コード】

N0875E

### 【作者名】

日向葵

### 【あらすじ】

とある女の子のちょっとした恋の短いお話です。

「いいなあ。」

じどろっとした目で思わず見てしまつ。

「そんなに飲みたきゃ、飲めばいいのに。」

隣の栄子がポテトチップスを摘みながら言う。

「だめ。決めたの。今日は飲まないって。」

「あつそ。」

栄子はそう言って、これみよがしに目の前でジョッキに注がれた金色の液体をぐびぐび飲み干す。

思わずぐくりとつばを飲み込んだ。

「おー、お前、酒絶ちしてるんだって?」

と、そこへほんのり赤い顔をした長身の男があらわれ、隣にどっか

りと腰を下ろした。

「柄じゃないねえ。ほんとに飲みたいんだろ？」

「いーえ。ちつとも。」

そう言ってるのにもかかわらず、男は目の前のグラスにガボガボと勢いよくビールを注ぎ込んだ。

「ちよ、ちよつとも！！ 彰浩、やめてっば。」

「あゝ。俺の注いだ酒が飲めないってのか？」

男の顔がぐいっと近寄る。

くやしいくらいの端正な顔に、ゆるくパーマのかかった髪がさらりとこぼれた。

「いらないうて。ほんとに。」

顔をそらし、程よく泡だったビールが並々とつがれたグラスを横によける。

「いーから、飲めー！！」

「こついつ時の彰浩は、あきらめが悪い。  
眉をしかめ、思案顔でますます近づいてくる。」

「なんだよ、お前、俺が嫌いなのか？」

「アホ」

「…じゃあ、ダイエット？」

「黙れ。」

「じゃあ、なんでよ？　ねえねえチホさん。」

グラス片手に怖い顔で迫ってくる彰浩を必死で避ける。

「もう、いいからあっち行ってよ。ほら由佳ちゃんたちが呼んでるよ。」

「ちえ。つれない奴。」

彰浩はのっそりとたちあがると、ビール瓶を片手にふらふらと歩き出した。

わかってないなあ。

厄介者がいなくなったのを確認して、私はほっと胸をなでおろした。

あなたに、真っ赤な顔、見られたくないのっ！

ぼそりと心の中で呟いて、勢いよく弾ける泡を睨みつけた。

(後書き)

好きな人には、  
いい顔だけ見せたいもんなんです (^ ^)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0875e/>

---

金色の液体

2010年11月18日03時12分発行